

研究課題 (テーマ)		ウイズコロナ時代の急性期看護実習における手術室見学実習用の学修教材の作成	
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	看護学部看護学科	教授	栞子 嘉美
	看護学部看護学科	准教授	河相 てる美
	看護学部看護学科	講師	寺内 英真
	看護学部看護学科	助教	竹口 将志
研究結果の概要			
<p>1. 教材作成</p> <p>手術室見学実習の学修目標から重点項目 16 項目を抽出し、「腹腔鏡下幽門側切除 ビルロート I 法」の事例を基に教材を作成した。教材は動画と VR 教材の 2 種類があり、構成は教材学修の留意点と学修の目標、患者紹介、続いて看護の実際として患者入室、麻酔導入時、体位固定時、タイムアウト、手術中、術後の場面からなる。</p> <p>本教材は、富山県立中央病院看護部、麻酔科、外科の協力を得て、実際に手術室で撮影した。VR 教材は、アバターとなる看護学教員 2 名が患者と看護師となり登場し、学生が学ぶべき看護を展開する。したがって学生は、実際の手術室と全く同じ環境で、熟練看護師の動きを体験することが可能である。学生自身がコントロールしながら、360 度、近くでも全体的にも看護師の動きをリアルに観察、学修できる教材である。</p> <p>2. 評価</p> <p>完成した教材の評価として、令和 4 年度本学部の成人看護学実習（急性期）を 2023 年 1 月以降学修した 3 年次生 60 名と、既に手術室実習を終了した 4 年次生 2 名を対象として、体験学習を実施した。VR ゴーグルを装着して仮想現実での手術室看護を体験している学生の視界は、大型スクリーンに投影されるので、自己・他者評価することができる。重点項目に対する自己・他者評価は、次のようなものであった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手術を受ける患者の心に寄り添うケアの要点について、深く理解できた。 ・麻酔導入時確認（サインイン）の方法や、執刀開始直前確認（タイムアウト）の方法や、その重要性について理解することができた。 ・循環障害や神経障害を生じない手術体位固定の方法については、何度も繰り返して学修しないと覚えられないが、映像が頭に残るので学修しやすい。 <p>また、24 の評価項目に対する結果は、教材学修前の平均値 = 3.05 ± 0.56、学修後の平均値 = 4.3 ± 0.27（5 段階評価）であり、学修効果が明らかになった。</p>			
今後の展開			
令和 5 年度の成人看護学実習（急性期）では、対象学生全員に、実習初日に教材学修を体験してもらう。その後実際に実習において看護過程を展開し、学修効果を評価していく。			